令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名	西成区
学 校 名	長橋小学校
学校長名	宮辺　渉

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月18日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問紙調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・長橋小学校では、第６学年　　３２名

学校名　長橋小学校

令和５年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本年度の平均正答率は、国語・算数それぞれ全国平均・大阪市平均より１０ポイント以上下回る結果となった。特に国語では「書くことに関する事項」、算数では「図形」や「データの活用」の領域が本校の中で特に課題となって見られる。また、国語・算数ともに平均無回答率は全国平均・大阪市平均よりも高くなっている。しかし、国語・算数ともに令和４年度の平均正答率よりも数値は上がっており、学習の成果が見られる領域も出ている。学習内容が十分に定着できていない児童が見られることは大きな課題であるが、日々の授業に意欲的に取り組む児童は増えてきている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
特に正答率が低かったのは「書くこと」の分野で、図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表す問題であった。無回答率も４割近くとなっていることから、苦手意識が高いことがわかる。また、記述式の問題は全国的にも正答率は低い結果となっているが、本校児童の記述式問題に対する正答率は27.4ポイントと全国・大阪市平均よりも低い。無回答率も高いことから、記述式の問題に対して難しさを感じていたり苦手意識を持っていたりする児童が多いこともわかる。
学習意欲は比較的高いことから、無回答にならないようにあきらめず、何かわかることでも記入する力をつけていきたい。また、読書に対して前向きに取り組む児童は比較的多く見られるので、読書活動を効果的に取り入れ、漢字や文章に慣れ親しめるような手立てを講じていきたい。

［算数］
最も正答率の低かったのは図形の問題であった。中でも「三角形の面積の大小についてわかることを選び、選んだわけを書く」問題では、正答率が10.7ポイントと低く、言葉と数を使って答えを書くことが難しかったようである。記述式の問題に対する正答率は28.6ポイントとなっており、自分の考えを言葉で書くことに苦手意識を持つ児童が多く見られる。
国語と同様に学習意欲は高いので、少しずつ着実に粘り強く問題に取り組めるようにしていきたい。算数においては、基礎・基本の定着を図るための復習の時間を設けており、着実に力をつけていけるように継続して取り組んでいく。

質問紙調査より

「国語の勉強は好き」と肯定的に回答する児童の割合は43.3％と全国より18.2ポイント低い。しかし「算数の勉強は好き」と肯定的に回答する児童の割合は66.7％と全国より5.3ポイント高い。また「英語の勉強は好き」と肯定的に回答する児童の割合は76.7％と全国より7.4ポイント高い。
本校児童はどの学習においても意欲的であり、日常の学習に抱く満足感も高いが、学力調査のと結果にあらわれていないことが残念である。学力の定着にむけ、後に述べるアクションプランを継続して取り組む必要がある。
「いじめはどんな理由があってもいけない」と最も肯定的に回答する児童の割合は96.7％と全国より14.1ポイントも高い。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で

最も肯定的な回答をする児童が80.0%、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」の項目で最も肯定的な回答をする児童が63.3%と、それぞれ全国・大阪市を大きく上回る結果であった。これからの結果から、本校で人権教育を基盤に大事にしている取組などが一つの成果となって表れた結果であると考える。

学校以外の時間での学習への取り組みについて、一日あたりの学習時間で「30分より少ない時間」「全くしない」と答えた児童の割合は、56.6%と半数以上で、全国平均よりも40ポイント以上も高いことが調査からわかった。結果からわかるように多くの児童が宿題以外の学習にあまり取り組めていないことが課題としてあげられる。本校には様々な家庭背景を抱えた児童は多くいるが、児童が家庭で取り組みやすい学習課題を提供するなどして、保護者の協力を得ながら家庭学習に前向きに取り組ませていきたい。

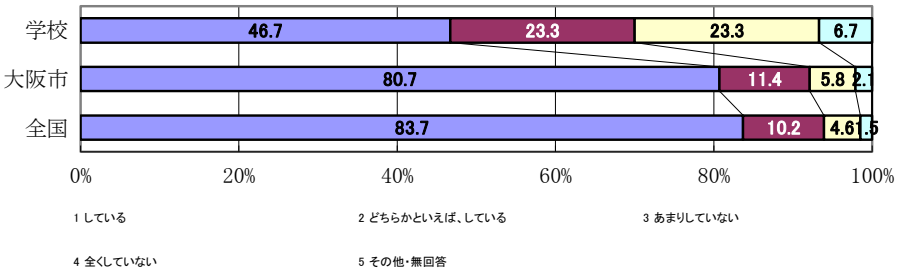
今後の取組(アクションプラン)

児童一人ひとりの学力を的確に捉え、実態に応じた学習環境を整えたり、支援を行ったりしていきながら、児童にとって『主体的・対話的で深い学び』となるように学習や取組を進めていく。教育効果を上げるために、教科学習での充実を図るとともに、人権教育も充実させる。様々な教育活動を通して自己肯定感を高め、様々な角度から達成感や満足感を味わわせることで児童の学力向上につなげていきたい。

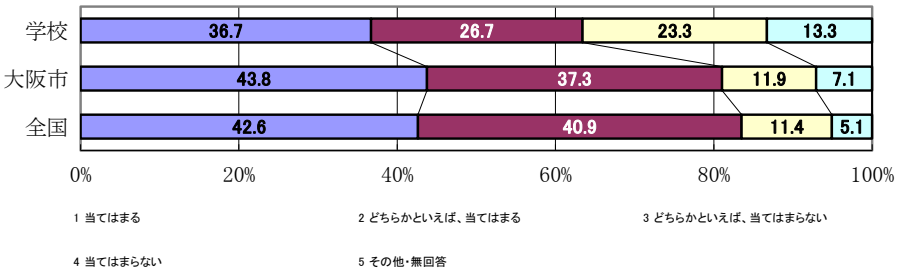
・計算・漢字などの基礎・基本の定着を図る。
・児童の実態に応じた習熟度別学習・少人数授業を取り入れた細やかな支援を行う。
・児童の実態に応じた個別教材の作成する。
・個別の指導計画を作成する。
・ICT機器を効果的に活用し、視覚・聴覚支援を充実させる。
・朝学習の時間で、読みきかせや読書・計算などを行う。
・読書ができる環境の整備。（読書活動の推進）
・サポーター（学習支援）の配置。（学びサポーター・特別支援教育サポーター）
・学びの定着を図るための放課後学習に取り組む。（スマイル教室・教室での学習補填、区役所との連携）
・エビデンス（各種アンケート・算数チャレンジ・多層指導モデルMIM・hyperーQUなど）に基づいた指導計画を作成する。
・地域との交流や多文化共生教育を充実させ、児童の自己肯定感の向上につなげる。

児童質問紙より

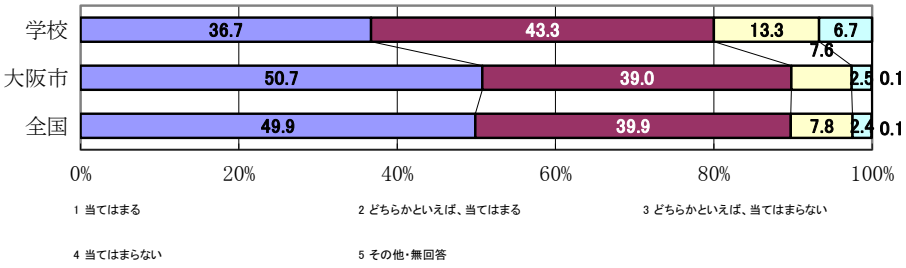
質問番号	質問事項
1	朝食を毎日食べている



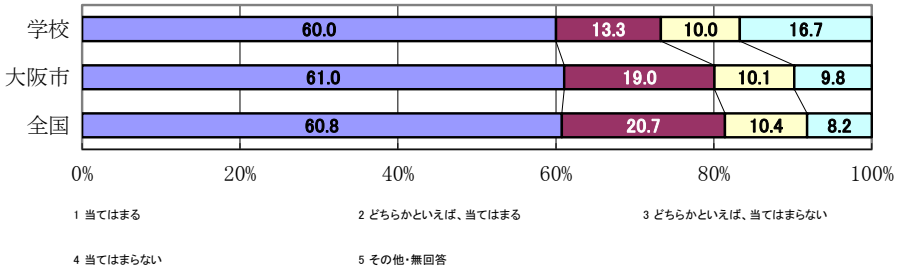
4
自分には、よいところがあると思う



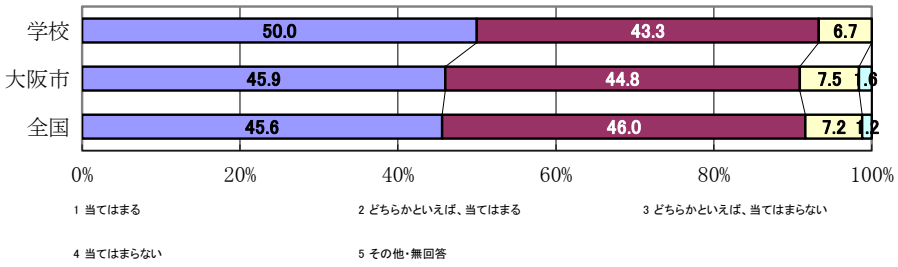
5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



7
将来の夢や目標を持っている



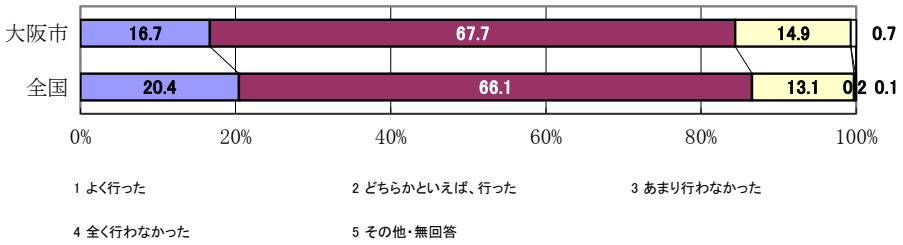
8
人が困っているときは、進んで助けている



学校質問紙より

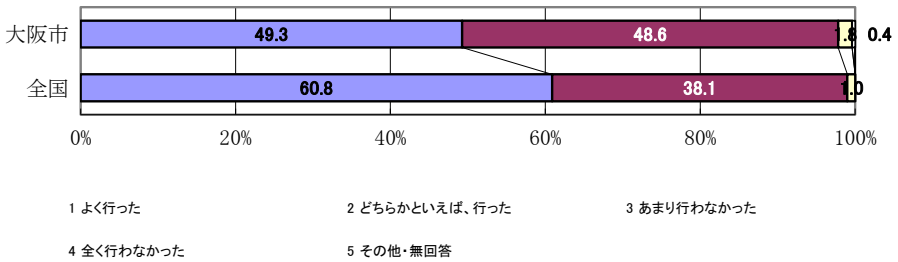
質問番号	質問事項
11	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

学校　「どちらかといえば、行った」を選択



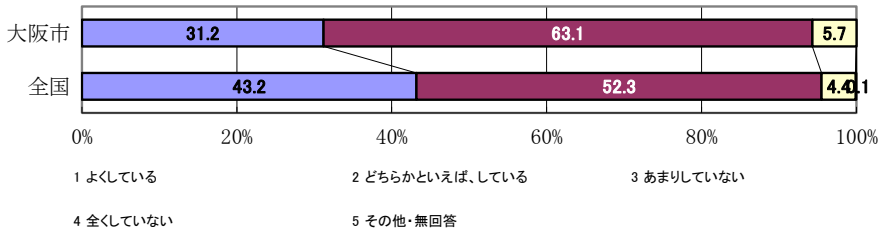
13	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った

学校　「どちらかといえば、行った」を選択



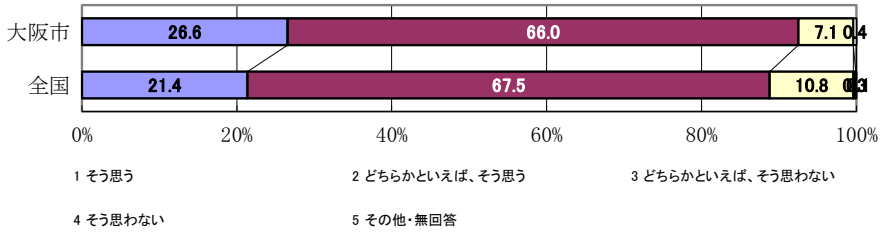
20	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

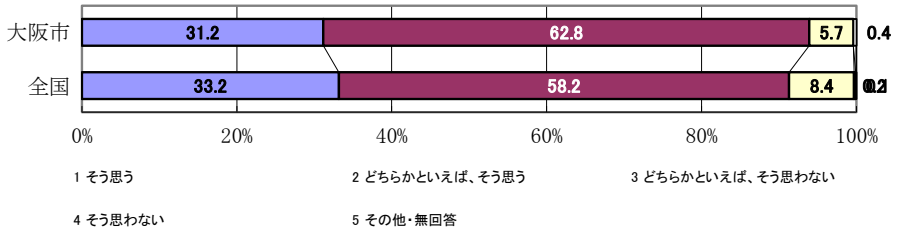
学校　「よくしている」を選択



26	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

学校　「どちらかといえば、そう思う」を選択



30	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている

学校　「どちらかといえば、そう思う」を選択